

令和4年度

教育課程指導資料

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて
～子供が自己調整しながら学習を進めていく授業～

目 次

あいさつ	1	体育・保健体育	1 6
総論	2	技術・家庭	1 8
国語	4	外国語活動・外国語	2 0
社会	6	生活・総合的な学習の時間	2 2
算数・数学	8	道徳	2 4
理科	1 0	特別活動	2 6
音楽	1 2	研究員一覧	2 8
図画工作・美術	1 4		



Webサイトの紹介

義務教育課教育指導担当Webサイトでは、以下のような義務教育課で作成した資料をダウンロードすることができます。

- 山梨県学校教育指導重点資料
- 深い学びの実現に向けたICT活用推進事業
- 英語教育改善プラン推進事業
- コミュニティ・スクール、小中連携・小中一貫教育
- ふるさと山梨かるた ふるさと山梨デジタルブック
- 言語活動ハンドブック
- 家庭学習資料
- キャリア教育資料
- 防災教育資料 など



義務教育課教育指導担当 Web サイト

<https://www.pref.yamanashi.jp/gimukyo/shido/>

あいさつ

令和3年1月に「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」が示されました。その中では、急激に変化する時代の中で、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成すること」が、学校教育に求められているとしています。

これらの資質・能力を育むためには、学習指導要領の着実な実施に加えて、これからの学校教育を支える基盤的なツールとしてICTが必要不可欠となります。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という「子供の学び」の姿に焦点を当てた授業づくりでは、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩み等の理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが重要になります。

山梨県教育委員会では、学習指導要領に基づいた教育課程の一層の充実を図るため、教育課程研究会を組織し、学習指導の工夫・改善や適切な評価の在り方等について研究を進め、その成果の普及を図っています。本年度は「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて～子供が自己調整しながら学習を進める授業～」をテーマとして、県内の54名の先生方に協力いただき、各教科等担当指導主事と協働して研究を進めてきました。

本冊子には、実践に見られた子供たちの自ら学びを調整しようとする姿やその姿を引き出すための手立て等、一年間の研究会を通して得られた指導上の工夫をまとめてあります。また、本冊子で紹介した実践事例の詳細は、義務教育課教育指導担当のWebサイトに掲載しています。

これらの資料が広く活用され、子供一人一人が自立した学習者として学び続けていく力を育むための授業改善が、各校において積極的に推進されることを期待します。

令和5年2月

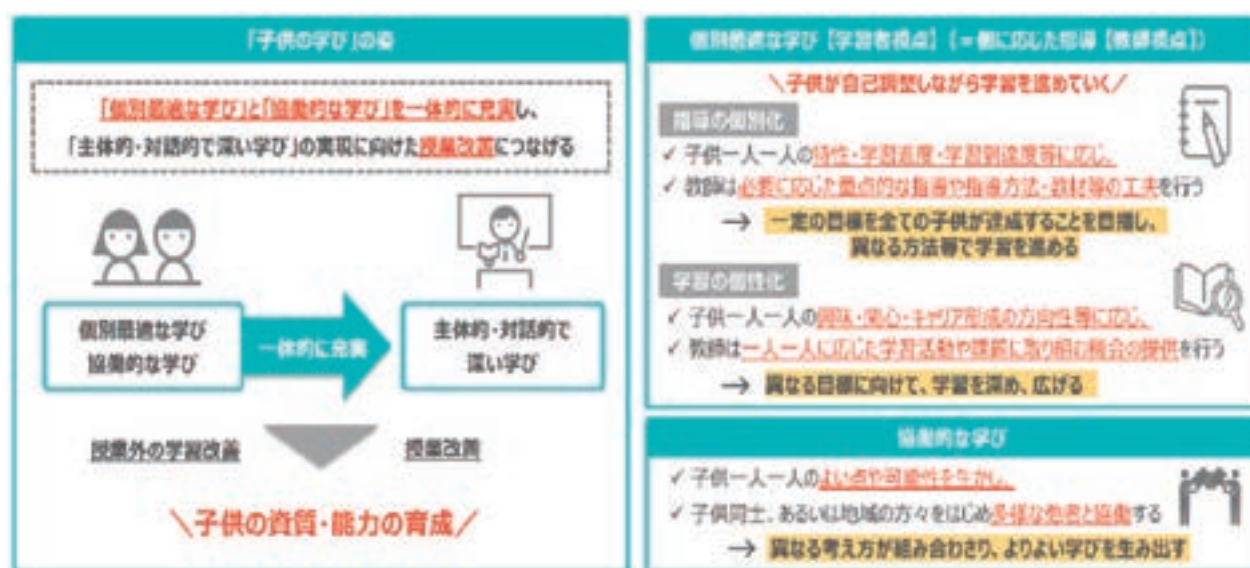
山梨県教育庁義務教育課長 秋山 克也

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて

1 基本的な考え方

今後の教育課程の在り方については、「学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、そのためには新たに学校における基盤的なツールとなるICTも最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する『個別最適な学び』と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす『協働的な学び』の一体的な充実が図られることが求められる」とされています。

「個別最適な学び」も「協働的な学び」もキーワードとしては新しいものですが、下図にも表されているように全く新しい学びの姿というわけではありません。それらを一体的に充実させることにより、これまで培われてきた工夫とともにICTの新たな可能性を指導に生かすことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことを目指します。



POINT!!

◆ 個別最適な学び

「個別最適な学び」については、「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されており、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することの重要性が指摘されています。

◆ 協働的な学び

「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動などを通じ、多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要であるとされています。

<参考資料>

- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申） 令和3年1月
- ・学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料 令和3年3月

2 本冊子について

本年度の教育課程研究会では、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」を踏まえ、授業改善の工夫を各教科等の特質に合わせて具体化し、実践例を示すこととしました。

その際、児童・生徒の「自ら学びを調整しようとする姿」に焦点を当て、その姿を引き出すための工夫が、事例における授業改善のポイントとなるように作成しました。工夫については次のような項目をつけて紹介しています。

学習課題の工夫

学習過程の工夫

学習環境の工夫

評価方法の工夫

学習形態の工夫

ICTの活用

また、本冊子で紹介をしている実践事例の詳細は、義務教育課教育指導担当Webサイト内の「教育課程研究会」のページに掲載しています。指導案だけでなく、実際の授業の様子や授業改善のポイントなども端的にまとめていますので、ぜひご覧ください。



教育課程研究会 Web サイト

小学校 国語

事例 1

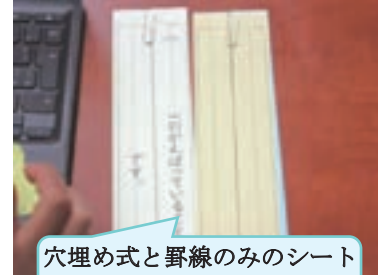
1 学年 ともだちのこと、しらせよう

本時のねらい：質問して分かったことを基に、まとまりや順番を意識しながら、友達のことを知らせる文章を書くことができる。

自己の学習進度に応じた学習方法・教材の選択

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・「書くこと」における自己の学習状況を理解し、ワークシート等の教材を自ら選択して課題に向かおうとする姿
- ・1人1台端末に保存してあるインタビュー動画を何度も見直しなが、まとまりや順番に着目して紹介文を書き直す姿



穴埋め式と罫線のみシートを個々で選択。

こんな姿を引き出すために…

学習過程の工夫

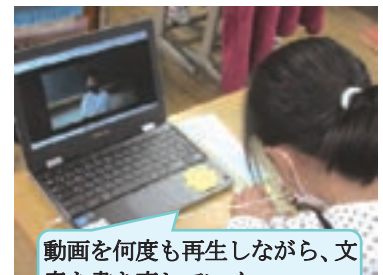
こんな姿を引き出すために…

ICTの活用

本実践では、前時に録画したインタビュー動画を1人1台端末で視聴しながら、友達の紹介文を書くという、「個別学習」の場を設定した。

その際、形式等の違うシートを用意することで、児童が自身の「書くこと」における学習状況を考えて、自己選択することができるようにした。まとまりごとの文章を書きながら、状況に応じてシートを変更するなど、課題解決に向けて自らシートを使用などを**選択する姿**が見られると同時に、まとまりごとの順番を入れ替えるなど、文章の構成を工夫する姿が見られた。

また、1人1台端末で、友達全員のインタビュー動画を視聴することができるようにしたことで、早く書き終わった児童が、別の友達の紹介文づくりに意欲的に取り組む姿も見られるなど、**個々の学習進度に応じた学び**の保証にもつながった。



動画を何度も再生しながら、文章を書き直していく。



早く終わった児童は、別の友達の紹介文に挑戦。

事例 2

1 学年 じどう車くらべ・じどう車ずかんをつくろう

本時のねらい：はしご車の資料から、その「しごと」と「つくり」を関連させて捉えることができる。

本実践では、児童がはしご車の「つくり」を探す際に、3つの学習環境を用意することで、**個々に学習方法（動画・写真・本）を選択できるようにした**。友達と一緒に動画を見ながら探す姿、一人で黙々と本から探す姿など、教室の内外を自由に動きながら、「つくり」を探すために、**最適な方法を選択する姿**が見られた。

学習環境の工夫



事例 1

2 学年 「平家物語」のなぜ？を調べよう

本時のねらい：目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。

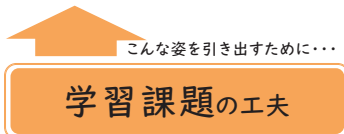
自己の学習進度に応じて他者と対話し、解釈を深める学習

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・自分の疑問、気付きを基に、他者の疑問、気付きを参考にしながら、自ら解決したい課題を設定しようとする姿
- ・自分で設定した課題を解決するために、1人1台端末で他者の考えを閲覧し、自分の解釈を再構成しようとする姿



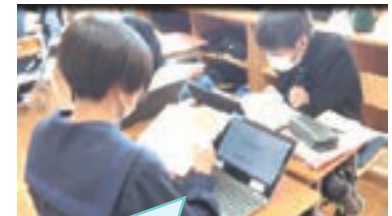
ICTを活用した考えの共有
・ファイル共有による自由閲覧やクラウド上に保存したファイルのリンク共有による自由閲覧等の方法が考えられる。



本実践では、1人1台端末を活用し、自分の学習進度に応じて、他者の考えを自由に閲覧できるようにし、他者の考えを参考にしたり、質問したりできる、自分で学習を調整する時間を設定した。

平家方の男を射た場面に、どのような意味があるのだろうかという課題を設定した生徒は、与一について課題を設定した生徒の考え（責任感の強さ、命令に忠実）を参考にしながら、この場面を「非情」な源氏と「雅」な平家の関係を印象付けていると意味付けていた。

このように、単元を構想する上で、生徒自らが自分の学習状況を把握し、自分で学習方法等を選択できる時間の設定が有効だったと考えられる。



生徒が個人・グループなど、学習形態を必要に応じて選択できる。

事例 2

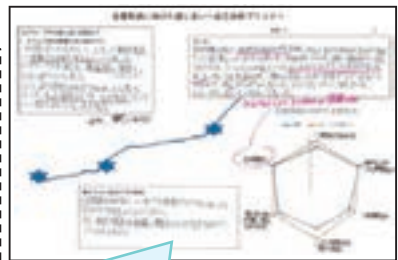
3 学年 山梨市を背負って立つ議論をしよう

学習過程の工夫

本時のねらい：進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。

本実践では、個に応じた目標を設定させるため、グループでの話し合い活動の様子を、1人1台端末を用い撮影し可視化した。

生徒が、動画を振り返りながら、合意形成に向けた話し合いでの自分の課題を明確にし、全体での話し合いに臨むことができるように学習過程を工夫した。生徒の振り返りの記述から、個別の目標を明確に設定させることで、生徒が目標と実際の活動を振り返り、学習調整が行われていた様子を見取ることができた。



生徒のワークシート例：動画を振り返らせたり、自分の現状をグラフ化させたりして、個別の目標を明確に設定させた。

事例

4 学年 「くらしと電気」

本時のねらい：これまでの学習を基に、資料から読み取り考えたことを比較・分類したり、関連付けたりすることを通して、持続可能な電力供給のために自分たちが協力できることを考えたり、選択・判断したりする。

ICTを活用した考えの共有・吟味による、選択・判断の充実



自分たちの考えを相談しながら吟味する。

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・「共同編集×思考ツール」の活用により、共有化された友達の考えを基に、比較・分類したり、関連付けたりしながら自分の考えを吟味する姿
- ・問いに対する予想を立てる際に、多くの資料の中から自分なりの予想の根拠となるものを取捨選択し、確かな根拠をもって自分の考えをもち、課題解決に向かおうとする姿

こんな姿を引き出すために…

ICTの活用

○思考ツールを活用したワークシートを共同編集することで、「家庭や学校」、「地域や企業」など電気を消費する立場ごとの節電対策について比較しながら考えることができた。これにより、自分以外の消費する立場にある人の節電への取組を踏まえた上で、自ら考えた「自分が節電に協力できること」を実現可能性や効果といった視点から吟味し、選択・判断することができた。

○クラウドシステムを活用し、個に応じた資料の閲覧環境を整えることで、個別の興味関心に応じて授業場面以外でも、見学時に撮影した動画や発展的な資料を閲覧できるようにした。これにより、繰り返し動画を確認するなど、自分のタイミングで資料確認ができるため、調べたことを基に深く考えることにつながった。



共同編集により、リアルタイムで友達の考えに触れられ、自分の考えとすぐに比較することができる。



学習環境の工夫

学習形態の工夫

【学習問題を追究する～収集した情報を共有し合い、思考する場面～】

- ・クラウドシステム以外にも、教室や廊下における資料の閲覧環境を設定し、個別の興味関心に応じて見学時に撮影した動画や発展的な資料を閲覧できるようにした。
- ・学習内容を、誰とどのような手段で調べ、どのような形でまとめるのかなど、児童が自分で学習方略を考え、実行し、修正できる学習形態で授業を展開した。



事例

3 学年 「私たちの暮らしと現代社会」

本時のねらい：自分で見いだした現代社会の特色が、現在および将来の日本の政治・経済・国際社会に与える影響について、見通しをもち課題解決に取り組む。

学習者に学びが委ねられた授業

～既習事項を活用し、見方・考え方を働かせる学習者の姿～

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・学習課題（コロナ禍で、「〇〇化」はこれからどのように変化していくだろう）の解決への見通しをもつために、どのような方略（個人 or グループで解決、どのような資料が必要なのか）で学習を進めていくのか考える姿
- ・学習課題の解決を目指した本時における自分の学びはどうだったのか、次回以降にどのように生かしていくのかを考える姿

自分が設定した方略で学習課題の解決に取り組みます。途中で方略を変更しても大丈夫です。



こんな姿を引き出すために…

学習課題の工夫

こんな姿を引き出すために…

評価方法の工夫

「現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う」ために、生徒が「学んでみたい」と感じる学習課題を設定した。具体的には、「私たちが生きる現代社会と文化の特色」の学習内容に現在の情勢（コロナ禍）を掛け合わせた単元構成とし、学習に現実味をもたせた。

「自ら学びを調整するには、メタ認知の能力が必要」とされている。本事例の授業者は、毎回の授業において、学んだことではなく、学んでみてどうだったかという視点から振り返りを行っており、生徒のメタ認知能力を日頃から育成していた。

ICTの活用

調べたことをもとに自分の考えをまとめたシートを作成し、クラスの掲示板に投稿します。



本時は「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業であった。それを可能にしたのがICTの活用である。

本時では、ICTを調べるツールとしてだけでなく、調べたことをもとに自分の考えをまとめるプレゼンテーションのツールとして、更には、まとめたことに対する仲間からのアドバイスを収集するツールとして活用していた。

その結果、教科書に掲載されているもの以外の現代社会の特色について自分なりに見だし、その特色が現在および将来の政治・経済・国際社会に与える影響を多面的・多角的に考察し、表現する活動を充実させていた。

小学校 算数

事例 1

5 学年 「三角形と四角形の面積」

本時のねらい：台形の性質に着目し、平行四辺形や三角形など求積可能な図形に帰着して考え、面積の求め方について筋道立てて説明することができる。

他者の記述を基に、自らの考えを広げ深める個別学習の充実

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・ 1人1台端末で友達の考えを閲覧することを通して、等積変形以外にも多様な方法があることに気付き、自分の解決に取り入れる姿
- ・ 理解が進まないときに友達に説明を求めたり、図を基に式を書き込んだり、自身の状況に応じて学習方法を考えていく姿

こんな姿を引き出すために…

学習過程の工夫

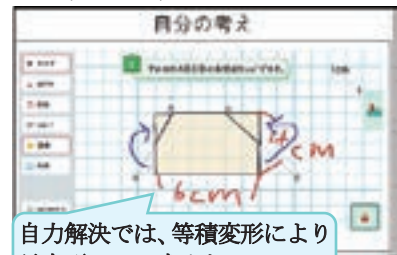
自力解決の後にそれぞれが解決に用いた図を1人1台端末で共有し、求積方法について自由に検討する「個別学習」の時間を設定した。

○児童は友達の書いた図を読み、式化し、自分の言葉で説明し直すことで他者の解決を追体験した。自分を取り入れたい友達の図をコピーしてファイルに貼り付け、説明を書き込んでいくことで自身の考えが広がったきっかけを記録に残すことができた。

○自身の学習状況を自覚した上で学習方法を考え、自分のペースで複数の求積方法を理解することができた。

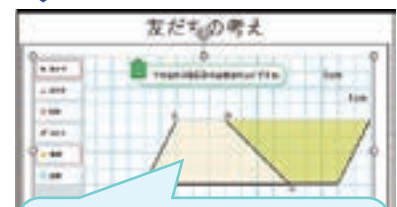
このような「個別学習」を充実させるためには、前時までの「一斉」の時間（平行四辺形・三角形の課題での全体検討）で、解決を進める際に「どこに着目すべきなのか」「その考えのよさは何か」等の見方や考え方を積極的に取り上げるなど、単元全体を見通して指導と評価を計画していくことが重要になる。

< A児のファイル >



自力解決では、等積変形により長方形にして求めた。

※個別学習で、友達のファイルを閲覧したり相談したりする。



倍積の考えに気付き、友達の画像をコピーしてファイルに貼付。平行四辺形を使った求積方法をノートに書き込む。

事例 2

4 学年 「垂直、平行と四角形」

学習課題の工夫

プログラミングソフト「Scratch」を使って、正方形のプログラムを基にひし形のかき方を考える実践。児童は、ひし形のプログラムを読み直すことでひし形の特徴を再確認し、「図形の特徴を生かしてプログラムを作る」という視点を他の図形にも応用することができた。授業後半では、個々の学習状況に対応しながら理解を深められるよう、新たな課題（平行四辺形）を設定する工夫を行った。



中学校 数学

事例 1

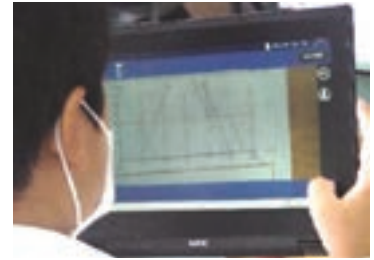
2 学年 「一次関数」

本時のねらい：日常の事象を一次関数とみなし、グラフの特徴を読み取り表現することができる。

個別に設定された問題と協働学習の充実

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・理解度に応じて個別問題を選択する姿
- ・個別問題を解決する中で気付いたことを全体で共有することで、新たなグラフの性質に気付く姿



こんな姿を引き出すために…

学習課題の工夫

試行錯誤する過程はワークシートで行い、まとめたものを1人1台端末で共有した。



本授業の前半では、全体でグラフを用いた問題を扱った。後半では「前半のグラフから気付くことをまとめる」「表からグラフを作成して問題を解き、気付くことをまとめる」「時刻表からグラフを作成し、気付くことをまとめる」と3種類の問題を提示し、生徒は前半の理解度に応じて自ら取り組む問題を選択し、取り組む中で気付いたことを1人1台端末でまとめた。気付いたことを交流する場面では、実際の電車の動きをイメージしながら説明することで、理解が深まる様子が見られた。

これらの活動を充実させるには、以下の2点が重要である。

- ①授業全体のねらいを明確にすること
- ②3種類の問題について、共通点を意識して提示すること



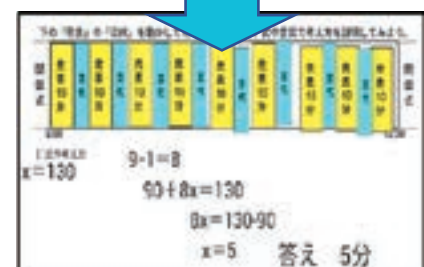
気付いたことは、リアルタイムで電子黒板に共有。

事例 2

1 学年 「方程式」

ICTの活用

合唱発表会の各発表の交代時間について、Jamboard を用いて自分の考えを説明する実践。生徒は、図を動かすことで交代時間と発表時間の関係性を明確に理解することができた。また、式と結びつけるように図を動かすことで、改めて式をつくり直す姿も見られた。共有の際には図をもとにして、式を説明することで、お互いの考え方の共通点や相違点を見つけることができた。自分の考えをまとめながら、他の人の考えを自由に見られるように共有設定の工夫を行った。



事例

4 学年 「天気の様子」

本時のねらい：ペットボトルについて水滴はどこから来たのかについて、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想を発想した上で、調べて表現することができる。

既習の内容や生活経験と関連付けながら、考えを深める学習

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・根拠のある予想を発想するために、本時の問題を既習の内容と関連付けたり、日常の生活経験と結び付けたりして捉え直す姿
- ・予想を基に、検証計画を立案し、自分で観察場所を決定する姿

こんな姿を引き出すために…

学習過程の工夫

本実践では、予想を発想する際に、児童が、既習の内容や生活経験と関連させながら考えられるよう、主に3点の工夫を行った。

① 教師が結露や霜などの写真を数枚提示したこと

提示した際、児童から「あー見たことある。」という声が多くあり、日常の生活経験と結びつけて捉え直す姿が見られた。

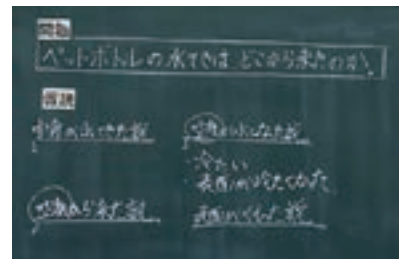
② 児童の予想を発表し合う時間を十分確保したこと

こうすることで、既習の内容を活用した意見を引き出すことができるようにすることをねらった。A児が、「水滴は空気からきた」という予想を発表した。予想を発想することに悩んでいたB児はA児の発言をきっかけに「水蒸気・・・」とつぶやき、既習を想起する様子が見られた。また、C児は「水滴は水蒸気に変化した。」「その理由は、水が変化した水蒸気がまた水になったからだと思う。」と発言し、既習を活用する姿も見られた。

③ 「水蒸気」の学習をした際の実験器具を用意しておいたこと

児童から「水滴は水蒸気に変化した」という既習の内容を活用する発言が見られた際、上記の実験器具を提示し、他の児童も既習内容を思い出せるようにした。

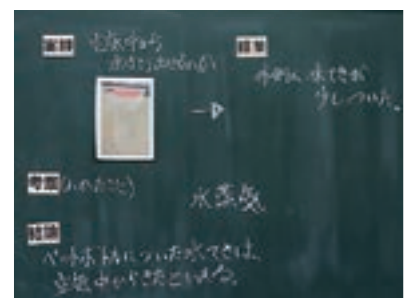
また、検証計画を立案する場面では、ペットボトルの水が空気中から来たという説を確かめるにはどこに氷の入ったビーカーを置けばよいかを考えさせ、自分で観察場所を決定させた。児童は、理科室の様々な場所で観察を行い、考察をより妥当な考えに深めることにつながった。



水滴の付いたペットボトル



既習の実験



中学校 理科

事例 1

2 学年 「化学変化と物質の質量」

本時のねらい: 実験方法と粒子の規則性を関連付けて考え、予想される結果となるような実験を立案し、実験を基に、結果を分析、解釈することができる。

探究の過程の中での協働的な学習の方法

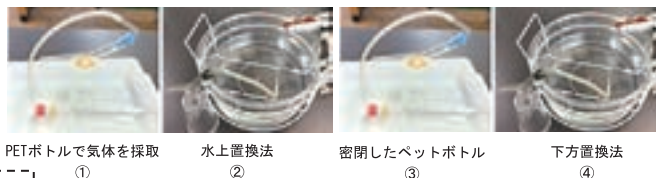
○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・生徒が学習課題を明確にし、問題解決のための実験方法の立案を行うことで、自分で学習を調整できる姿

【選択した実験の様子】



【選択した実験】



PETボトルで気体を採取

①

水上置換法

②

密閉したペットボトル

③

下方置換法

④

こんな姿を引き出すために・・・

学習課題の工夫

化学変化と質量の規則性を見いだすために、4つの実験方法を生徒が選択して、実験計画を立てることで、根拠をもって目的とする課題を解決することにつながった。既習内容を基に、発生する二酸化炭素をどのように計測するのかを個人で考え、同じ考えをもった仲間と交流することで、選択した実験で学びを深めることができた。

【生徒の作品】



事例 2

2 学年 「植物の体のつくりと働き」

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- 生徒が複数の情報を整理し、仲間と共に考えを交流していく中で、妥当性を検証することができる姿

こんな姿を引き出すために・・・

ICTの活用

ICT (ビデオカメラ・大型モニター) を活用することによって、観察するポイントを共有でき、気孔の様子が観察しやすくなった。また、1人1台端末を使用して、興味をもった植物について生息場所などをさらに調べることができた。また、班でデータを共有し、話し合う活動を行うことで、協働的な学びの充実につなげることができた。



生息場所等を調べるためにICTを活用している。

事例

5 学年 「日本の音楽に親しもう」

本時のねらい：二つの音階の感じの違いを味わい、どのように歌うのかについて思いや意図をもち、歌唱表現の工夫を考える。

一斉学習と個別学習をバランスよく取り入れ、考えを深める

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・二つの音階を聴き比べ、既習の知識を生かして違いを自分なりの言葉で表現しようとする姿
- ・個人での活動後に、仲間の考えを全体で共有することで様々な考えに触れ、1人1台端末で何度も音源を確認しながら、より考えを深めようとする姿

こんな姿を引き出すために…

学習過程の工夫

本実践では、鑑賞活動で日本の音楽に触れ、箏の演奏体験を通して音色や音階の特徴を感じ取り、「子もり歌」の歌唱へとつなげていくように授業を構成した。

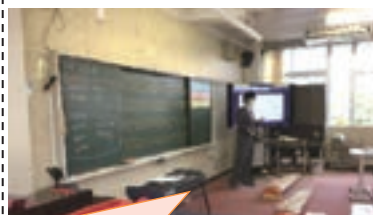
前時までの活動では都節音階の「子もり歌」のみを歌唱し、本時で律音階の「子もり歌」を聴取させ、二つの音階について学ぶ。

○児童は、1人1台端末でそれぞれの「子もり歌」を何度も聴きながら、それぞれの音階が生み出す雰囲気の違いを感じ取って、自分の言葉で表していく。その後、全体で考えを共有し、それを基にさらに自分の考えを深めていった。

○音階の生み出す雰囲気の違いを感じ取ったところで、どのように歌うのかについて個々で考えを深める時間をとる。ここで考えるパターンを「①都節音階の表現の工夫」「②律音階の表現の工夫」「③両方を比較した表現の工夫」の3つから児童が各自で選択して歌唱表現を工夫することができるようにした。

○児童が考えた歌唱表現の工夫は、実際に歌って試し、全体で意見や感想を共有することで、「よりよい表現の工夫をしたい」という意欲をもつことができた。

このように、教師が個人での活動と全体での考えの共有を適切に学習過程に位置付けることで、児童が自分の考えを深めながら学習を進めることにつながった。また、個人での活動の時間には、教師が個別に支援を行うことで、苦手意識をもつ児童も自分の考えをまとめたり、表現の工夫を考えたりすることができた。



教材・教具の配置を工夫。

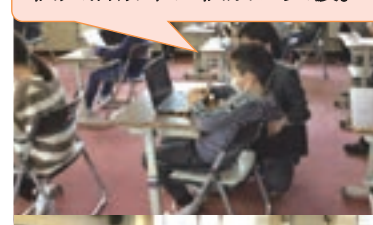
1人1台端末で音源を聴き、考えをまとめる。



考えた工夫を歌って試す。



個人活動中は個別に支援。



箏の演奏を聴いて、音階の違いについて実感を持った理解につなげる。

中学校 音楽

事例 1

1 学年 「和音の構成音をもとに、音のつながり方を工夫して旋律をつくろう」

本時のねらい：音のつながり方を工夫して、つくった旋律をよりよいものにする。

創作活動で活用するアプリを生徒が自分で選択する

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・自分自身のスキルに合わせて選択したアプリを活用し、試行錯誤しながらよりよい旋律をつくろうとする姿



こんな姿を引き出すために…

ICTの活用



紙のワークシートも用意し、自由に活用できるよう工夫。

本実践では、「Song Maker」「バーチャルピアノ」「Flat」の3つのアプリを用意し、生徒が自分のスキルに合わせて活用するアプリを選択できるようにした。個人学習だけでなく、仲間とアドバイスし合う協働的な学習や全体での共有も1人1台端末を用いて簡単に行うことができるため、創作を苦手とする生徒も含め、全員が作品を完成させることができた。

1人1台端末を活用して仲間とアドバイスし合う。



事例 2

2 学年 「歌舞伎の音楽の特徴と人々にとっての意味や役割を理解し、魅力を味わって聴こう」

本時のねらい：音楽の特徴を聴き取り、人々に長く親しまれているのはなぜか考える。

知識を得たり生かしたりしながら、生徒の関心を高める課題設定

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・これまでの学習で得た知識と新たに得た知識を生かし、江戸時代と現代における歌舞伎の音楽の意味や役割を考えながら音楽を味わって鑑賞し、自分の言葉で表現しようとする姿



こんな姿を引き出すために…

学習課題の工夫



音楽の意味や役割について、グループで考えを深める。

「どうして歌舞伎は人々に長く親しまれているのか」を考えて鑑賞するという課題に迫るために、要素を焦点化し、雅楽と比較鑑賞したり、場面ごとの特徴を聴き取ったりする活動を設定した。

1 学年での学習で得た知識を生かしながら新たな課題に向き合うことができ、生徒が関心をもって学習に取り組むことができた。



生徒に学習内容が伝わりやすいよう、モニターと黒板を併用。

小学校 図画工作

事例

6 学年 「わたしのランプシェード」 (絵や立体、工作に表す)

題材のねらい：「明かりで部屋を〇〇な感じにしたい」という思いを基に、自分だけの「〇〇なランプシェード」をつくることができるよう、光の感じを確かめながら工夫して表す。

「つくり、つくりかえ、つくる」が叶う場所

〇本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・ 主題 (思い) を意識して、表し方を工夫する姿
- ・ 自身の力で、「つくり、つくりかえ、つくる」姿
- ・ 1つの作品をつくり終えても、次々に作品をつくり出す姿



こんな姿を引き出すために…

学習環境の工夫

図画工作科では、児童が自身の思いに合わせて活動を展開できるように環境を工夫することが重要となる。本題材では、児童が授業の中で、学び続けられるような仕掛けを随所に取り入れた。

- ・ **自分の意思で取りに行く「材料コーナー」**
使ってよい材料や用具を特定の場所に集めた。児童が取りに行く場面をつくることで、仲間の制作を見るきっかけとした。
- ・ **何度でも試せる場づくり「ミニ暗室」**
暗いところで光の感じを確かめることができる場所を用意した。児童は、何度も光の感じを確かめていて、「もっと〇〇な感じにするには？」という問いに向かって、取り組んでいた。



こんな姿を引き出すために…

ICTの活用



ヒント動画



- ・ **困った時の強い味方「ヒント動画」**
事前に児童のつまずきを想定して作成した動画をクラウド上にアップした。児童は自身の必要性に応じて動画を視聴していた。
- ・ **学びの足跡「デジタルポートフォリオ」**
授業の終わりには、制作の経過を撮影し、学びを振り返った。
- ・ **作品のその後「1人1台端末の持ち帰り」**
持ち帰った作品を、部屋に置いて撮影してくる宿題を出した。



事例 1

1 学年 「私がカメラで見た世界 私が心で見た世界」

題材の目標：風景や場所から感じ取った印象を基に主題を生み出し、それらのイメージをより強調させるように、アクリル絵の具を使って、表し方を工夫して絵に表す。

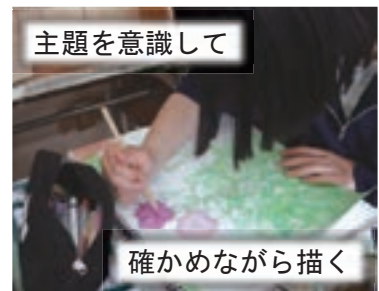
作品例の鑑賞で表現のウォーミングアップ！

- 本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿
- ・ただ漠然と対象を描くのではなく、自身の感じた印象を主題として、そのイメージに近づいているかを何度も確かめて描く姿

こんな姿を引き出すために…

学習課題の工夫

- ・導入部で、風景や場所の写真を提示し、「自分だったら、どんな雰囲気風景や場所にしてみたい？」と全体に投げかけた。一斉指導での生徒とのやり取りを通して、主題のもち方や工夫の仕方の一例を示し、ポイントを押さえた制作活動につなげた。



事例 2

3 学年 「魅力を伝えるパッケージ」

題材の目標：山梨の名産品がもつ魅力から主題を生み出し、よさを他者に伝えるためのパッケージのデザインを構想し、表現の意図に応じて創意工夫して創造的に表す。

ゴールまでの道は自分が決める、自分でつくる

- 本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿
- ・名産品の魅力を伝えることから主題を生み出し、制作の見通しをもち、自分なりのプランをもって活動に向かう姿

こんな姿を引き出すために…

学習過程の工夫

- ・目標達成のために、どのような手順や方法で制作を進めるかを考えさせた。情報収集やアイデアスケッチ、仲間との意見交換等、自身の考えや必要性に応じて活動を選択できるようにした。
- ・ポートフォリオ型のワークシートで、取組計画等を振り返った。



小学校 体育

事例 1

6 学年 「器械運動 マット運動」

本時のねらい：手本となる動画や友達からのアドバイスを参考にしながら、技のポイントを意識し、より安定した技を行うことができる。

可視化された自分の姿を基に技能の向上を目指す

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・手本の動画と自分の姿を比較し、改善すべき点を確認する姿
- ・仲間からのアドバイスを参考にしながら、より美しく技を成功させようとする姿

↑
こんな姿を引き出すために・・・

ICT の活用

課題を意識しながら
取り組んでいるか確認。

1人1台端末で試技の様子を友達に撮影してもらい、手本動画と比較する時間を設定した。比較により自分の課題がより明確になることで、目的を持った活動につなげることができる。

○自分の姿と手本動画を比較し、課題がどこにあるかを考え、課題解決に向けて思考を深めながら、より安定した技を試みることができた。

○グループでの活動を通して、互いの課題を共有し、アドバイスし合うことで協働的な学びが生まれた。腰の伸ばし方や着手するタイミングについて意見交換し、技を見合うことを通して、より安定した伸膝後転を行うことができた。児童自身が習得すべき技のポイントを理解することで、さらに学びが広がっていく。



事例 2

3 学年 「走・跳の運動 高跳び」

学習環境の工夫

動画遅延ソフトを活用することで、自分の姿（助走から踏み切り足を決めて跳び越す姿）を瞬時に確認することができた。さらに、友達から自分の様子を聞くことで、足を上げるタイミングなどの個々の課題を明確にし、解決に向けた取組を行う姿が見られた。

児童が活動する時間を確実に設け、運動量を確保することは、体育の授業において大前提となる。マットやICT機器の設置場所を工夫することで、安全な空間の中で授業を進めることができた。

自分の姿(跳ぶ様子)を
即座にチェック。



中学校 保健体育

事例 1

3 学年 「陸上競技（長距離走）」＜体育分野＞

本時のねらい：仲間とともに楽しむための練習や課題解決のできる練習方法を考え実践し、互いに伝え合い、高め合う。

協働的な学習から、課題解決へ向けた個別学習の充実

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えようとする姿
- ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに長距離走を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けようとする姿

こんな姿を引き出すために…

学習過程の工夫

【協働的な学習】

- 前時までの自己や仲間の技術的な課題を 1 人 1 台端末で共有し、課題解決へ向けた有効な練習方法を選択する。(例 スピードコントロールの向上を目指したビルドアップ走を取り入れる。)
- 各グループでは、各自の課題を共有しながら、グループの目標と練習内容を確認する。
- 各自の課題解決へ向けて走動作の映像撮影や運動強度（ラップタイム等）の確認をし、互いに助言することや自己の考えを伝えることのできる時間を設定する。

【個別学習】

- 上記の協働的な学習から、1 人 1 台端末を使用し自己の振り返りを行う。その際、練習方法が適切であったか、効果があったか、次時へ向けてどのような修正を加える必要があるかなど、個別学習が最適となるよう調整することが必要となる。

課題を共有する場面



考えを伝え合う場面



事例 2

2 学年 「傷害の防止」＜保健分野＞

学習過程の工夫

前時の振り返り→目標の共有→課題解決へ向けた協働学習→本時の振り返り

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・各事例における発生要因について、仲間と考えたり、まとめたり、共有したりしようとする姿

前時について、1 人 1 台端末のアンケート機能の集計結果を活用して、振り返りを行い、学んだことを頭の中で再構成しなおす。そして、発問と絡めながら本時の目標（学習の目指す地点）を共有する。また、発生要因の各事例を見ながら、Jamboard を利用することで、自己の意見をグループの仲間と共有し、カテゴリーにまとめる協働学習から自らの考えを広げる個別学習へつなげる。最後に ICT 端末を利用し、振り返りのアンケートと小テストの結果を見える化することで、本時の学習がより強化できる学習の展開の工夫を行った。

個別に課題に取り組む場面



協働で課題に取り組む場面

中学校 技術

事例1

2 学年 「発電方法のメリット・デメリットを考える」

本時のねらい：3E+Sの視点で、それぞれが選んだ発電方法のメリット・デメリットから、発電方法ごとの特徴を考える。

多様な資料から、自己に必要な資料の選択と活用

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・ここまで学習してきた資料以外に、自己に必要な資料を調べ、学習をしている姿
- ・仲間が調べた他の発電方法について、自分が調べた発電方法の特徴や視点と比較することで、新たな視点で発電方法の特徴を学び、考えを深める姿



必要な資料の選択

学習過程の工夫

こんな姿を引き出すために…

1人1台端末と資料で発表



本実践では、教科書や自分で用意した資料をもとに、発電の特徴を1人1台端末にまとめる活動を行った。発電効率や発電にかかるコスト、他国の状況など、それぞれが異なる視点で発電方法について学習し、その後グループで考えを共有した。発表を受け、自分の気付かない新たな視点に気付かせ、その後自分の内容と比較する時間を設定することで、考えを深めることにつながった。

事例2

1 学年 「小物を整理するための本立ての製作」

本時のねらい：組立てに向けて必要な部品加工を行う。その中で、材料の特徴を理解し、作業に適した工具や工作機械を選択する。

材料の特徴を考え、それぞれが必要な工具を選択する力を育む

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・材料に応じた部品加工のために、工具・工作機械を適切に選択する姿
- ・正確に部品加工を行うために、工具・工作機械の特徴を理解し、動作のポイントを自分の言葉でまとめ、材料に応じた工具を用いた部品加工を行う姿



ICTの活用

こんな姿を引き出すために…

本実践では、自らの部品加工の課題を写真に撮り、使用する工具や機械を選択しポートフォリオに自分の言葉でまとめた。工具については、1人1台端末を用いて、使用方法の動画を提示し、個別で視聴するなど、考えを深める時間を設定した。

小中学校 家庭

事例 1

小学校 5 学年 「生活を豊かにソーイング」

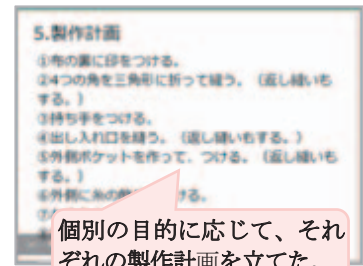
本時のねらい：「生活を豊かにするための布を用いた製作」において、一人一人の目的に応じた袋の製作を行い、形や大きさなどをそれぞれの目的に合わせて工夫することができる。

題材で用いる教材を見直し、学習の個性化を推進

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・自身の生活を振り返り、必要な袋の形を考え、1人1台端末で製作方法や工夫の仕方を調べながらそれぞれの目的に応じた袋を製作しようとする姿
- ・各自の製作計画をグループで発表し、よりよい製作のために気付いた点をアドバイスし合い、それを基にさらに自身の計画を見直し、修正・改善して実際の製作へとつなげようとする姿

< A児の製作計画 >



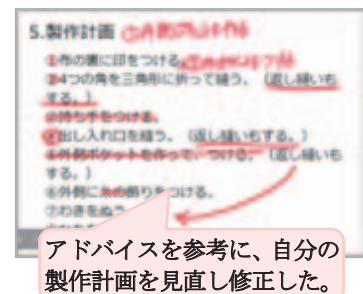
こんな姿を引き出すために…

学習課題の工夫

- 「生活を豊かにするための布を用いた製作」では、一律に同じ形の袋を製作することが多く見られていた。しかし本実践では、自分の生活を振り返って必要な袋の種類(トートバッグ型やナップザック型等)やそれに見合う形を考え、一人一人の目的に応じた袋を製作できるよう教材の見直しを図った。
- ICTを活用して製作に必要な材料や手順などを検討し、自身の製作計画を立てた。同じ形の袋を作る児童同士でお互いの製作計画を発表し合い、気付いた点をアドバイスし合うことで、自身の計画の見直しを図り、必要なところは修正するなどして、実際の製作にスムーズにつなげようとする姿が見られた。



※友達の計画にアドバイスを送る協働的な学習



事例 2

中学校 1 学年 「災害への備え」

ICTの活用

本時のねらい：家族の安全を考えた住空間の整え方に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して住生活の課題を解決する力を養い、生活を工夫し創造しようとする。

家族の安全を考えた住空間の整え方について学習し、1人1台端末で各家庭の現状を撮影した。その写真を共有し、グループ内で解決方法や対策などを考え、スライドに書き込んだ。他の生徒からの意見を参考に、自分の家の地震対策について改めて見つめ直し、必要な方法について考え、実際に実践してレポートにまとめた。



小学校 外国語活動・外国語

事例 1

5 学年 「Where is the post office?～外国の人に地域のお気に入りスポットを紹介しよう～」

本時のねらい：地域に初めて来た人に、自分のお気に入りスポットを紹介し、案内するために、おすすめしたいことなどについて、友達と伝え合うことができる。

自身の英語表現を深めるための方法を自ら選択し、発話に生かす

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・ 1 回目のやり取りで、「魅力を上手く伝えられなかった。」と振り返った児童が、他の児童の紹介を聞いて加えたい表現に気付き、ICTを活用して自ら表現を確認し、自分の紹介に生かそうとする姿



自身の英語表現を深めるために、各自で ICT を活用



こんな姿を引き出すために…



代表児童のやり取りを、自分の紹介と比較しながら聞く。



本時のねらいを達成するために、コミュニケーションを行う目的・場面・状況を明確にした上で、伝える内容や伝え方について、言語活動を通して、児童が思考する時間を設けた。①デジタル教科書②学習者用ソフト（指導者が ALT と協力して作成した単元の語句や表現を音声とともに確認できるもの）③Google 検索④毎時間、書き溜めてきたワークシート等の中から、自身の表現をより深めるために必要な方法を児童自らが選択し、後半のやり取りに生かすことができた。

事例 2

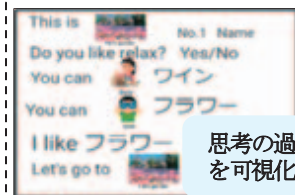
5 学年 「I want to go to Italy. ～甲州市のベストスポットを紹介しよう！～」

本時のねらい：甲州市に来たばかりの ALT の先生に、甲州市のベストスポットを紹介するために、そこでできることや選んだ理由について、内容を整理した上で、伝えることができる。

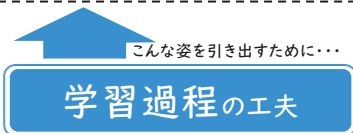
個別学習と協働学習を繰り返しながら、話す力を高める指導の工夫

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

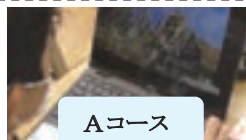
- ・ ALT が「行ってみたい。」と思えるような紹介にするために、指導者のデモや中間指導における友達の発表から着想を得て、学び方を自己選択し、工夫して自分の思いや考えを伝えようとする姿



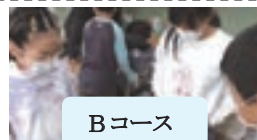
思考の過程を可視化



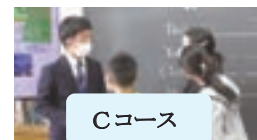
こんな姿を引き出すために…



Aコース



Bコース



Cコース

前時に「ALT の先生が行ってみたいと思えるような紹介をしたい。」と記述した児童の学習感想を基に、どのような紹介がよいのかを考え、思い思いの工夫を取り入れる活動を行った。授業の前半に、指導者のやり取りから工夫の視点を捉えさせ、3つのコース（「自分で」「友達と」「先生と」）の中から、児童が学習方法を選択し、思考する時間を設けた。児童は、各コースで学習を進める中で、取り入れたいと思った語句や表現、中間指導において、他の児童の発表から学んだことを思考ツール（Jamboard）に記入し、情報を整理しながら、自身の発表をよりよくする工夫に挑戦し続けた。

中学校 外国語

事例 1

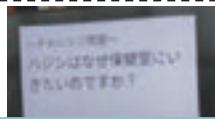
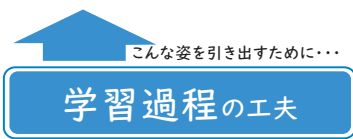
1 学年 This Is Our School (Here We Go English Course 1)

本時の目標：エイムズ市の中学生に、自分の学校のおすすめの場所（教室や施設）を詳しく知ってもらうために、ビデオメッセージで紹介することができる。

生徒が自ら学び取った方法でパフォーマンスを改善する授業

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・エイムズ市の中学生について理解を深め、相手に合ったビデオメッセージを作成するために、学習者用デジタル教科書の内容や表現を抽出したり、友達のビデオを視聴したりして、生徒が自らパフォーマンスを改善しようとする姿



・個に応じた課題設定



・個人のペースでリスニング
・スクリプトも紹介に生かす



・友達の動画を視聴し、自分のパフォーマンスを改善

- ① 帯活動で中学校のおすすめの場所についてやり取りをし、中間指導で内容と表現を改善した。
- ② Classroom にエイムズ市の中学生を意識できるような ウェブサイト のリンクや 写真 を用意した。
- ③ 生徒が自ら、学習者用デジタル教科書の本文からビデオメッセージ に使えそうな 表現や語彙 に線を引いたり、動画やリスニング教材 などを見たり聞いたりする時間を設定した。
- ④ ペア で録画したビデオを見て 内容・表現・態度面 で アドバイス をし、ブラッシュアップ を行った。

事例 2

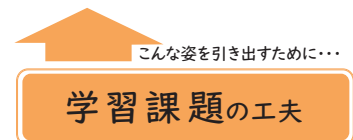
3 学年 The Story of Chocolate (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)

本時の目標：元々チョコレートがどのように使われていたのか、物語の概要や要点を捉え、まとめたメモを基に要約文を書くことができる。

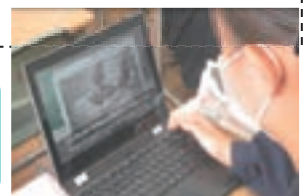
課題設定の工夫と目的・場面・状況に応じた「読むこと」の指導

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・単元終末のパフォーマンステストに向けて本文の要約をするために、全体で一斉に読む時間と、個別に本文と向き合う時間を行き来するなかで、生徒は自らの学習レベルに応じて、デジタル教科書の機能を選択し、概要・要点を捉えようとする姿



・字幕付き動画を視聴し、概要を捉える姿
・グループで要約文を共有



- ① パフォーマンステスト を ループリック とともに、単元のはじめに提示 し、見通し をもたせた。テストでは、前版の教科書本文 (野菜の歴史) を読み、概要・要点を捉え、要約と感想 を伝えた。
- ② 毎回の授業で、要約文を書くために教科書本文を読むという目的意識 をもたせ、活動を行った。
- ③ 事前にリーディングポイント を示し、個別にデジタル教科書を使って読む時間を設定 した。字幕付き動画を見たり、音声と一緒に本文を読んだりして、生徒は 自分に合った読み方 を選択した。
- ④ 個別に読んだ後、自分の理解と友達の考えを比較検討 することで、生徒は 要約文を改善 した。

小学校 生活

事例 1

1 学年 「いきものとなかよし」

本時の目標：自ら生き物の存在に関心を持ち、虫に合わせた世話をする中で、虫が変化していることや、生命をもっていることに気付き、親しみをもって生き物と関わっていくことができる。

思いや願いのもとに学習し、気づきの質を高める学習の充実

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・他者の気づきを聞き、自分の気づきと関連させて、生き物についての学びを深めようとする姿
- ・思いや願いのもと学習方法を自分で選び、活動後に振り返って、自分の活動ができたかどうかを確認する姿



こんな姿を引き出すために…

学習過程の工夫

飼っている虫を見る、本を見る、カードを見直す、1人1台端末で動画や静止画を探すなど、思いや願いのもとに個別学習。

- 前時までの虫の世話について、気付いたことを児童が話し合ったり発表したりする中で、似ているところ、違うところなどを教師が問い、気づきを関連させる活動を設定した。
- 児童が更に詳しく知りたいと思ったことを、自分で選んで自由に調べるグループ内での「個別学習」の時間を設定した。虫をよく見て動きを調べる児童、これまでの観察カードを見直す児童、友達と話し合う児童、使いたい本を見て調べる児童、ICTを活用して虫の動画や静止画を検索して調べる児童など、自分の思いや願いのもとに活動することができた。

事例 2

1 学年 「なかよしいっぱい だいさくせん」 ～つうがくろでみつけた～

ICTの活用

通学路を探検して見つけたことについて、ICTを活用して発表し、思考ツールを使って分類、気づきを振り返った実践。発表の際には、選んだ場所の個々の気づきを、絵で表す、インタビュー動画を見せる、静止面に自分の思いを描き足すなどの方法でまとめて伝えた。個々の気づきの振り返りから、自分たちが安全にすごせるように見守られているという全体への気づきへとつながった。



事例 3

2 学年 「うごくうごくわたしのおもちゃ」

学習過程の工夫

身近にあるものを使って、動くおもちゃを作る活動において、児童の思いや願いを大切に活動につなげた実践。教師が丁寧に問うことで「まっすぐ進むようにしたい」「もっと速くしたい」など、よりよく動くようにしたいという児童の思いや願いを引き出した。その実現のために「数を増やしたらどうか」「重くしたらどうか」「大きさを変えたらどうか」「よく動く友達に聞いてみたい」など、児童自身が方法を考えて活動した。活動後、結果をワークシートへ記入し、活動を振り返った。



友達に聞きながら、粘り強く修正。

小中学校 総合的な学習の時間

事例 1・2

自らの考えを明確にもち、他者からの意見を基に自らの考えを改善する学習の充実

小学校 6 学年 「ふるさと PR 大作戦」

本単元のねらい：人口減少や観光客の減少の問題を抱える地域が活気づくように、地域活性化のための取組を調べたり、情報を発信したりする活動を通して、まちづくりに取り組む人々の思いや願いを理解し、持続可能な地域の在り方について考え、地域の一員として進んで行動しようとする。

1人1台端末を活用し
ポイントを発表



○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・地域をPRするパンフレットの内容について、友達からの意見を基に更によりよいものにしようと改善していく姿

中学校 3 学年 「提言しよう 私の意見 -SDGsを通して白州の未来を創る-」

本単元のねらい：SDGsを視点に地域活性化への思いを提言する活動を通して、地域の方々の思いを理解し、持続可能な社会の実現に向け必要なものを考え、実生活の問題解決に進んで関わろうとする。

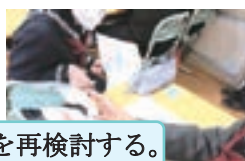
○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・提言の内容をよりよいものにするために、友達や教員等他者からの意見やアドバイスを基に、内容や計画の修正を検討し、今後の見通しをもち、課題を明確にしている姿

こんな姿を引き出すために…

学習過程の工夫

内容や計画を再検討する。



「考えるための技法」を活用し、協働して問題を解決したり、分析、まとめ・表現したりする。その際に「思考ツール」を用い、考えを整理させたり視覚的に捉えさせたりする。

また課題解決の過程の中で、他者からの意見やアドバイスをもらう中間発表会などの機会を設定する。他者からの多角的な考えにより、自らの考えを修正し、目的意識や相手意識をもち内容や計画等を再設定・改善していくことにつなげる。成果物の作成に向け、検討した計画を基に様々な方策で課題解決を進めていく。

【整理・分析】において

◇自分の考えをもつ

考えを整理する

考えを視覚的に捉える

⇒「思考ツール」の活用



【まとめ・表現】において

◇成果物の作成

⇒目的意識・相手意識を
もたせる



◇中間発表会の実施

⇒他者からの意見・アドバイスから、自分の考えを改善する

事例 3

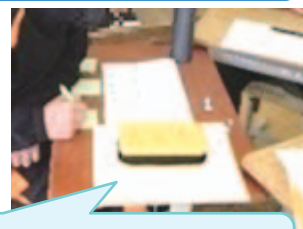
中学校 3 学年 「将来の生き方について考えよう」

見通しと振り返りでメタ認知を育成していく学習の充実

3年間の総合的な学習の時間や様々な学びや活動を振り返り、自己を見つめるとともに、更なる成長と将来の生き方を追究する。

見通し（ゴールイメージとプロセスイメージ）をもたせ、活動の意味を捉えさせながら、課題解決を進める。振り返りでは課題解決に向けた過程の中での自らの状況を捉えさせる。目的意識を明確にもたせ自己評価を繰り返すことでメタ認知を高めていく。

学習過程の工夫



友達からのアドバイスを基に、
これまでの自分を振り返る。

小学校 道徳

事例 1

6 学年「ロレンゾの友達」（本当の友達）

本時のねらい：ロレンゾの3人の友達の対応を考えるを通して、友達に対してどのような思いが大切か考えを深め、友達と互いに信頼し良好な人間関係を築いていこうとする心情を育てる。

様々な立場の考えを知ることで、自らの考えを深める学習の充実

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

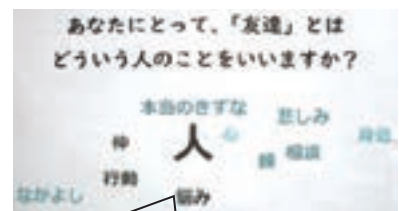
- ・様々な立場を受け入れつつ、「友達と良好な人間関係を築いていくために自分は何を大切にしていきたいか」という問いへの自分自身の納得解を、他者との話し合いを通して求めようとしている姿



こんな姿を引き出すために…

学習過程の工夫

- ① **問題意識**をもつ導入
 - ・事前アンケートにより、「友達」に対する考えを集計し、テキストマイニングで提示した。
- ② ICTを活用し、「**自分だったら**」の立場を明確化
 - ・「アンドレ」「ニコライ」「サバイユ」の行動の理由を考え、自分の立場を明確にした。
- ③自分とは違う考え方を「**知りたい**」、自分の考えを「**伝えたい**」をかなえる話し合い活動の工夫
 - ・1人1台端末での考えの共有だけでなく、直接的な対話（同じ立場、違う立場、学級全体）を通して、考えを深めていった。
- ④ **考えの深まりを自覚**することができる終末
 - ・再度「友達」について考え、授業前との考えと比較し、考えの深まりを自覚できるようにした。



テキストマイニングで考えを可視化



事例 2

3・4 学年「かっこいい背中」（すすんで働く）

3・4年生の複式学級での実践。「働くこと」について、4年生は、自分たちが日常的に実践している「朝玄関掃除」の**体験を振り返る**ことで、3年生はみんなのために働く4年生に**疑問を質問する**ことで「何のために働くのか」自分自身の納得解を得ていった。立場の違う者同士で対話をするすることで、**改めて自分の気持ちを自覚したり、新たな価値に気付いたり**していった。

学習過程の工夫



中学校 道徳

事例 1

3 学年「二通の手紙」（社会の秩序と規律を守る）

本時のねらい：元さんの思いを考えることを通して、法やきまりの意義に気付き、自らの義務を果たすことでよりよい社会をつくらうとする態度を育てる。

一人一人が自分事として問題意識をもち、考えていくために

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・自分の考える「規則やきまり」についての価値観と、教材の中で描かれる価値観の違いに気付き、「自分は規則やきまりを守ることをどのように捉えるか」問題意識をもって考えようとする姿



迷う、破ってもしかたがないが、約3/4。

こんな姿を引き出すために…

ICTの活用

1人1台端末を活用した意見交流与直接対話を効果的に使い分ける。

- ①「規則・きまり」に対する自分たちの考えの傾向を可視化
 - ・事前アンケートの回答を円グラフで提示し、学級の傾向を可視化。「規則・きまり」に対して、「守ったほうがよい」と考える生徒が多いものの、そこには迷いや葛藤がある生徒が多いことが明確になった。
- ②教材の内容を整理し、価値観の違いを明確化
 - ・スライドで教材を整理し、教材の中での「規則・きまり」に対する価値観を理解しやすくした。教材を理解することで、授業前の自分たちの価値観との違いに気付くこととなった。
- ③スライド機能を活用し、自分と他者の考えを比較
 - ・「規則・きまり」に対する自分の考えを書き込み、共有した。生徒同士の直接対話の時間もとることで、他者の考えと比較し、自分の考えをさらに深めていくことになった。



事例 2

1 学年「初めての伴奏」

(集団生活を充実させていくために大切なことは何か)

ICTの活用

Forms のアンケート機能を使うことで、学習指導過程に応じて オンタイムで自分の立場を明確にした話し合い を行った実践。生徒は、アンケートに答えることにより、自分の立場を明確にすることができた。自分の立場を明確にすることで、違った立場の意見にも意識を向けることとなり、互いに意見を交流する中で「よりよい学校生活のために必要なことは何か」考えを深めていった。



小学校 特別活動

事例

6 学年 学級活動（１） 「互いの考えを伝え合い、議題を決めよう」

本時のねらい：学校生活を居心地よく過ごすことを目指し、話し合う議題を設定することができる。

よりよい学級にしていくためにみんなで話し合う議題を決める

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・学級の問題を自分事として捉え、多様な他者の考えや立場を尊重しながら、議題を決めようとする姿
- ・よりよい学級にしていくための合意形成に向かう場面で、自分の思いと他者の思いに折り合いをつけようとする姿

こんな姿を引き出すために・・・

学習課題の工夫

○本実践の学習課題（議題）の工夫

（１）議題の決定を学級会で行う。

本事例では議題の選定・決定自体を学級会の目的としている。議題の選定・決定を学級会にて全員で行うことで、学級の問題をより自分事として考えるようにしている。

議題の決め方についても話し合う。

（２）一人一人がレーダーチャートを分析し、学級の課題を考える。

学級力アンケートを基に作成したレーダーチャートを一人一人が分析し、12の項目の中で一番課題となる項目（議題にしたい項目）とその理由を個人で考える。

私は「時間」について話し合いたい。まだまだ守れていないと思うし、時間を守れば、余裕ができて、新しいことにチャレンジできる。

時間

平等

年3回実施する学級力アンケート。12の項目があり、レーダーチャートに対応している。

「平等」を議題にしていきたい。ケンカとかはないけれど、なんとなく上下関係を感じてしまうことがあるから。

ICTの活用

○本実践のICTの活用

- ・合意形成に向けての活用

学習支援ソフトを活用し、児童一人一人の議題についての意見を集約、比較、分類する。また1人1台端末は過去のレーダーチャート等のデータ資料を利用しやすく、自分や学級の成長や変化を振り返る時にも有効である。

各自の意見を大型モニターに表示し、比較する。

中学校 特別活動

事例 1

3 学年 学級活動(2) 「仲間のために自分ができること」

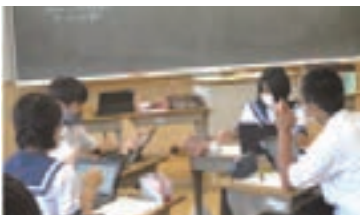
本時のねらい：学園祭での経験を基に、よい学級にするために自分のできることを決める。

よりよい学級にするための自分のできることを決める

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・学園祭を振り返り、お互いの姿を伝え合う活動を通して、自分の変容や成長に気づき、自分のよさや自分にできることを考えようとする姿
- ・自分のよさを生かすために、卒業までの学校生活を見通し、「どの場面」で、「どのような形」で「どう生かすか」、そのためには「どうすればよいのか」を考えようとする姿

学習過程の工夫



学園祭でのお互いの姿を伝え、自分のよさを考える。

○本実践の学習過程の工夫

- ・学級活動(3)との関わりを意識した学習過程(計画)
よりよい学級を目指す学級活動(2)の内容を中心としながら、学級活動(3)の自分のよさやよりよい自分の姿を考える活動も取り入れている。
また、キャリア・パスポートは、記述して終わりにせず、話し合いの際の資料として活用した。キャリア・パスポートを振り返り、今年の学園祭だけでなく、昨年度の学園祭の活動履歴や思いに触れたりすることで、自分の変容や成長に気付く資料になる。

◎ 学園祭の経験を生かし、クラスのためにできること

副ブロック長として、ブロックの劇を成功することができた。

キャリア・パスポート

学園祭の振り返り

いろいろ声掛けをしたことで、みんなを励ましていたんだ。

友達からのアドバイス「いつも声を掛けてくれから頑張れた」

グループでの話し合い

人を勇気付けたり、励ましたりすることができる。

自分のよさ

意思決定

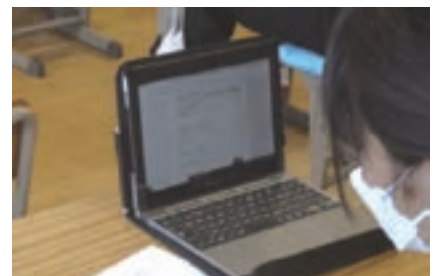
合唱や卒業に向けての取組で、友達に声を掛けていこう。

できること

ICTの活用

○本実践のICTの活用

- ・1人1台端末でのキャリア・パスポートの利用
話し合いをより効果的にするために、キャリア・パスポートの必要部分をPDF化し、1人1台端末に保存する。他の資料と比べてみたり、話し合いの際に友達に見せて説明したりする。



1人1台端末でキャリア・パスポートや資料の情報を確認する。

令和4年度 教育課程研究会 研究員一覧

部会・所属	氏名
国語	
昭和町立押原小学校	松田 大樹
山梨市立加納岩小学校	中村 咲
南アルプス市立甲西中学校	岩下 尚人
山梨市立山梨南中学校	糠信 恵理香
義務教育課	小林 紀浩
	富高 勇樹

部会・所属	氏名
算数・数学	
甲府市立玉諸小学校	阿部 千春
大月市立猿橋小学校	柴北みどり
中央市立玉穂中学校	田中 慶太
富士吉田市立吉田中学校	神田 恵梨香
義務教育課	岡里 真実
	雨宮 光平

部会・所属	氏名
音楽	
甲斐市立敷島小学校	桐山 翔太
富士吉田市立下吉田東小学校	依田 秀樹
甲府市立城南中学校	中村 華子
甲府市立上条中学校	上野 千夏
総合教育センター	小林 美佳

部会・所属	氏名
体育・保健体育	
甲府市立大國小学校	樋川 諒
南アルプス市立白根百田小学校	東城 由香利
甲府市立南西中学校	荻野 康
南アルプス市立甲西中学校	雨宮 哲也
保健体育課	清水 宏次
	渡辺 健太郎

部会・所属	氏名
生活・総合的な学習の時間	
甲府市立伊勢小学校	山本 智恵
甲府市立池田小学校	小池 夏帆
大月市立大月東小学校	野澤 恵理香
韮崎市立韮崎小学校	川久保 蓉子
韮崎市立韮崎北東小学校	小沢 安司
北杜市立白州中学校	猪股 敬
市川三郷町立市川中学校	佐野 司
義務教育課	村田 利恵
総合教育センター	中村 忠廣

部会・所属	氏名
道徳	
北杜市立高根東小学校	中山 史也
甲州市立大和小学校	廣瀬 尚子
甲府市立南西中学校	三井 絵里
都留市立東桂中学校	橘 佑典
義務教育課	小嶋 庸子

部会・所属	氏名
社会	
甲斐市立竜王南小学校	日向 千恵
北杜市立須玉小学校	日向 伶之
北杜市立小淵沢中学校	新海 拓也
笛吹市立一宮中学校	岡田 龍亮
義務教育課	古屋 達朗
	梶原 隆一

部会・所属	氏名
理科	
甲斐市立敷島南小学校	佐野 優吾
富士河口湖町立小立小学校	辻 万里奈
山梨市立山梨北中学校	村田 裕紀
甲州市立松里中学校	雨宮 友久
義務教育課	雨宮 正倫
	藤原 聡



部会・所属	氏名
図画工作・美術	
甲斐市立敷島小学校	清水 啓哉
甲州市立塩山南小学校	市川 安紀
甲府市立城南中学校	松岡 あすみ
北杜市立高根中学校	秋山 菜穂
義務教育課	鷹野 敦貴

部会・所属	氏名
外国語	
甲州市立塩山南小学校	辻 毅
富士河口湖町立小立小学校	山口 大弥
甲斐市立竜王北中学校	松村広一郎
甲州市立塩山中学校	中村 大介
義務教育課	早川 優子
	河西 弘之

部会・所属	氏名
技術・家庭	
甲斐市立玉幡小学校	内藤 かなな
笛吹市立富士見小学校	成島 勇樹
甲府市立西中学校	深澤 茉莉
富士川町立増穂中学校	杉原 藍衣美
南アルプス市立櫛形中学校	舟久保 孝樹
笛吹市立石和中学校	石原 拓馬
富士吉田市立吉田中学校	鷹野 希郷
総合教育センター	飯窪 優
	坂本 久美

部会・所属	氏名
特別活動	
甲府市立山城小学校	中込 成貴
富士吉田市立下吉田第二小学校	大村 えり
身延町立身延中学校	佐野 隆一
大月市立大月東中学校	市川 洸
義務教育課	雨宮 康治

部会・所属	氏名
事務局	
少人数・義務教育指導監	小池 孝二
課長補佐	望月 陵
指導主事	岡里 真実
指導主事	小嶋 庸子



山梨県教育庁義務教育課